

開講日	2012年秋期 火曜日 18:30-20:00	講義場所	研究棟11階講義室A
コースディレクター	名古屋市立大学・医学研究科・脳神経生理学 教授 飛田秀樹 / 名古屋市あけぼの学園 医師 宮地泰士		

科目概要 および 期待される 成果	【概要】 発達障害に対する理解、指導法の習得、事例研究、などが進み、勉強熱心な関係者が多い。最近では教育現場の教員や療育に携わる関係者の中には、発達障害の医学的知識を知りたい、薬の作用メカニズムを知りたい、脳の仕組みを知りたい、などの声も多くなってきた。本講座では、ADHDを中心に発達障害の医学／生物学的な知識を、実験結果の裏打ちから深め、今後の発達障害児の教育／療育の幅を広げられることを目指す。 【期待される成果】 運動や行動の脳のしくみ、ADHDの診断から病気の医学的理解、環境要因の生物学的影響などについて学び、受講後のさらなる自己勉強がよりスムーズとなるとともに、実際の教育／療育現場での対応法の応用を考える手助けとなる。		
目標とする 資格			

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
脳の発達と働きを知る	1	神経の基礎を学ぶ：神経系の発達と動物的機能	脳は神経、神経膠細胞、希突起膠細胞から構成される。胎児期に基本が作られ、20歳頃までゆっくり成長している。神経系の発達と動物としての神経系の基本的な働きを学ぶ。	9月4日	名古屋市立大学・医学研究科・脳神経生理学 教授 飛田秀樹
	2	運動／行動のメカニズムを学ぶ	周囲の感覚情報を記憶に照らし、状況を認知・判断し、体を動かし、最適な行動をとることが動物的機能です。生後に発達するこの働きの中の、運動／行動の仕組みを学びます。	9月11日	名古屋市立大学・医学研究科・脳神経生理学 教授 飛田秀樹
	3	情動の発達：ドパミン神経系から”ほめる”や”怒り”を知る	最適な行動を取るためには、情動がしっかり発達する必要があります。情動とドパミン神経系について学び、”ほめる”ことの生物学的な意義、”怒り”について知ります。	9月18日	名古屋市立大学・医学研究科・脳神経生理学 教授 飛田秀樹
	4	脳と環境物質の関連を知る	近年、有機リン系殺虫剤がADHDの有病率と関連すると米国の研究者が報告し、話題になりました。微量な化学物質の体内取り込みと発達障害に関する最近知見を学びます。	9月25日	名古屋市立大学・医学研究科・環境保健学 教授 上島通浩
ADHDの発見から診断へ	5	ADHDの見極め：自閉症など他の原因との違い	不注意、多動、衝動性はADHDに限らず他の発達障害や精神障害などが原因でも認められる行動特徴です。それぞれの違いや鑑別について学びます。	10月2日	名古屋市あけぼの学園 医師 宮地泰士
	6	発達検査の解釈とその応用	今回は学齢児によく行われる発達検査の1つであるWISC-IIIを中心に、発達検査の結果をどのように解釈し、実際の指導に活かすのかを学びます。	10月9日	名古屋市あけぼの学園 医師 宮地泰士
	7	ほめて育てる：実践／実習編	”子どもをほめて育てる”ということが大切だと思っていても、なかなか実践できないと悩む親や指導者は多いです。実習を通してそのコツやポイントを学びます。	10月16日	名古屋市あけぼの学園 医師 宮地泰士
ADHDの病気を 知る	8	ADHDの病因を知る：遺伝・環境とエピジェネティクス	ADHD関連遺伝子が分かってきました。一方、環境により行動や遺伝子発現が大きく変化することが証明されました。実験データを交え、教育(環境要因)の重要性を学びます。	10月23日	名古屋市立大学・医学研究科・脳神経生理学 教授 飛田秀樹
	9	ADHD薬を知る：薬の効き方から副作用まで	ADHD治療で用いられる薬が、どのように作用するのかについて学びます。さらに、その副作用についての理解を深めます。適切な服薬へのアドバイスが可能にすることが目標です。	10月30日	名古屋第二赤十字病院・小児科医師 永井幸代 (名古屋市教育委員)
	10	ADHDの診断と治療効果を画像で知る	ADHDへの薬物療法が国内でも始まり、その治療効果を画像検査で評価することが可能となりました。長期的な厳格体罰の脳への影響についても学びます。	11月6日	福井大学・子どものこころの発達研究センター 教授 友田明美 (特別演者)
	11	ADHDに併発する障害を知る：臨床の現場から	ADHDの併発症や二次障害について概観します。また各ライフステージ毎の発達課題と二次障害の関係についても考えます。	11月13日	名古屋市発達障害者支援センター 医師 浅井朋子
教育／療育の 実践へ	12	トータル環境を考える：保護者との連携	ADHD児の治療には対応の方法などの環境調整が不可欠です。学校と家庭で子どもへ一貫した関わり方が可能になるためには、どのような連携が必要なのか考えます。	11月20日	名古屋市発達障害者支援センター 医師 浅井朋子
	13	社会的スキルトレーニング(1)	ソーシャルスキルトレーニングの考え方が子どもにとって何故必要なのかについて学びます。	11月27日	名古屋市立大学・人間文化研究科 教授 滝村雅人
	14	社会的スキルトレーニング(2)	(1)で学んだソーシャルスキルトレーニングの考え方をともに、実際の方法について学びます。	12月4日	名古屋市立大学・人間文化研究科 教授 滝村雅人 名古屋市立大学・人文社会学部非常勤講師 奥平俊子
	15	新たな教育／療育を考える：まとめとディスカッション	本講座のまとめを、ディスカッション形式で行います。生物学的な理解を深めたのち、どのように教育／療育に繋げることができるのでしょうか？	12月11日	名古屋市立大学・医学研究科・脳神経生理学 教授 飛田秀樹 / 名古屋市あけぼの学園 医師 宮地泰士